

# 常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 4年 5月 13日(金)

その2 通算 226号

## ◇ 【特集】岡崎市 32 人学級プロジェクト ※5 月市政だより おかざき



「市政だより おかざき」5 月前半号の表紙を捲ると、2 面には「鯉のぼり群」の写真。岡崎市のインスタグラムに投稿された市民のスナップショットである。

鯉群の奥に見える橋の造りや欄干形状、ガードレールの配置、標識等から、本校前で撮影されたことが確認できる。

鯉のぼりは撤去されたが、市民向け発行紙の巻頭を飾る光景を毎年見ることのできる幸せ。



さて、本市政だより。お手元があれば、是非、目を通して頂きたいのが「特集」。



【特集】岡崎市 32 人学級プロジェクト である。

※見開き 2 ページ (A4 版で 4 ページ) で掲載

プロジェクトの概要を説明する。

【岡崎市 32 人学級プロジェクト】とは、学習指導要領を SDGs の観点から解釈した「誰一人取り残さない(岡崎の)教育※令和の日本型学校教育」実現のための岡崎市独自の「少人数指導システム」である。

<経緯>

令和 3 年の法改正により、小学校に段階的に 35 人学級(1 学級あたりの最大児童数が 35 人)を措置適用。令和 6 年度完了。愛知県措置あり。

※詳細は「常なる磐Ⅱ83 号・R3.11.26 発」掲載

ここまでは国・県レベルの対応だが、この施策に先駆けて、岡崎市は独自で「少人数指導」対応施策（※中学校1年生の35人学級）が行われており、現在も継続中である。これらの取組は、西三河では4自治体しかなく、厚遇と言える。本プロジェクトは、それ以上の【他に例を見ない「厚遇施策」】ということになる。

小学校						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
令和3年度	35	35	35	40	40	40
現在 令和4年度	35	35	35	35	40	40
令和5年度	32	35	35	35	35	40
令和6年度	32	32	35	35	35	35
令和7年度	32	32	32	35	35	35
令和8年度	32	32	32	32	35	35
令和9年度	32	32	32	32	32	35
令和10年度	32	32	32	32	32	32

▲ 市独自の少人数学級計画

☞左は市政だよりに掲載されていた資料の転載。

令和5年度に小学校1年生から段階的に適応される「32人学級」は令和10年度に配備完了。  
 ※㊿表記の部分は、国基準ではすべて35人ということ

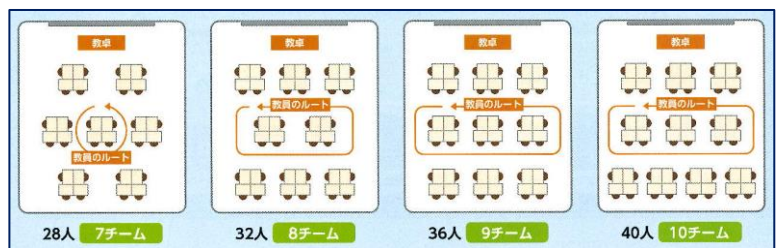
ここで注目すべきは、切りのいい「30」ではなく「32」という数字。この数字に岡崎市（常東小も）が今後推進していく教育の意図・方向性がある。  
【チーム学習】である。

【チーム学習】とは、4人を基本とするチームを作り、その小集団で行っていく「主体的で、対話的、かつ協働的な関わり合う深い学び」である。この取組は、すでに市内の先進小中学校で継続的な研究・実施がなされており、その学習効果は

極めて高く、効果的な学習スタイルであることが立証されている。

4人×8チーム=32人。だから㊿ということ。

これについては、支援する教師の動きを見れば、より少ない28人の場合よりも支援効果は高まる。



小規模の本校は、これまでも少人数指導のよさを生かして授業を進めてきた。それでも今後を見据え、「小規模校ならではのチーム学習」を模索中である。チーム学習に慣れることで、中学校に進学した場合も、スムーズに中学校式のチーム学習に移行できるであろう。

さて、「32人学級」導入により、問題となってくるのが、必要な「教員の確保」である。

岡崎市が独自に「任期付教員」として採用し、対応をしていくとのこと。この記事も詳しく記載されている。興味があれば一読を。☞

令和5年度採用から新制度スタート！

### 岡崎で小学校の先生になりませんか？

岡崎市任期付教員採用選考試験

**任期付教員とは？**  
 3年間の任用を定めて勤務する常勤の教員です。  
 任期の定めのない正規教員と同様に担任や教科指導を行います。

**任期付教員のメリットは？**